



ポリシーの管理

この章は、次の項で構成されています。

- [ポリシー, 1 ページ](#)
- [コンピューティング ポリシー, 2 ページ](#)
- [ベア メタル サーバのプロビジョニング ポリシーの設定, 6 ページ](#)
- [データ コレクション ポリシー, 8 ページ](#)
- [グループの共有ポリシーについて, 11 ページ](#)
- [ストレージ ポリシー, 12 ページ](#)
- [ネットワーク ポリシー, 22 ページ](#)
- [システム ポリシー, 33 ページ](#)
- [エンドユーザセルフサービス ポリシー, 41 ページ](#)
- [VM 管理ポリシーの設定, 43 ページ](#)

ポリシー

Cisco UCS Director は、仮想マシン (VM) やベア メタル サーバなどのリソースを、管理者の設定による事前定義されたポリシーを使用して割り当てられたリソースのプールからプロビジョニングする エンドユーザ ポータル を提供します。

ポリシーとは、仮想マシンまたはベア メタル サーバのいずれであるかにかかわらず、新しいリソースが利用可能なシステム リソースに基づいてインフラストラクチャ内でプロビジョニングされる場所と仕組みを決定する一連のルールのことです。

Cisco UCS Director では、リソースをプロビジョニングするために次のポリシーをセットアップする必要があります。

- コンピューティング
- ストレージ

- ネットワーク
- システム
- ベア メタル



重要 VMをプロビジョニングするためのポリシーを設定する前に、クラウドのアカウントを作成します。

コンピューティングポリシー

コンピューティングポリシーでは、グループまたはワークロードの要件を満たすために、プロビジョニング時に使用されるコンピューティングリソースを決定します。

管理者として、コンピューティングポリシーのさまざまな条件を組み合わせることで高度なポリシーを定義できます。



(注) コンピューティングポリシーのすべてのフィールドについて十分に理解することをお勧めします。条件の組み合わせによってはセルフサービスプロビジョニング中に使用できるホストマシンが存在しない場合があります。

コンピューティングポリシーの作成

ステップ1 メニューバーで、[ポリシー (Policies)] > [コンピューティング (Computing)] の順に選択します。

ステップ2 [VMwareコンピューティングポリシー (VMware Computing Policy)] タブを選択します。

ステップ3 [追加 (Add)] (+) をクリックします。

ステップ4 [コンピューティングポリシーの追加 (Add Computing Policy)] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[ポリシー名 (Policy Name)] フィールド	ポリシーの名前。 (注) この名前は、カタログの定義時に使用されます。
[ポリシーの説明 (Policy Description)] フィールド	ポリシーの説明。
[クラウド名 (Cloud Name)] ドロップダウンリスト	リソース割り当てを行うクラウドを選択します。

名前	説明
[ホストノードまたはクラスタスコープ (Host Node/Cluster Scope)] ドロップダウン リスト	導入の適用範囲を選択します。 (注) すべてのオプションを使用するか、選択したオプションを含めるか、または選択したオプションを除外するかを指定して、導入の範囲を絞り込むことができます。選択した内容に基づいて、必要なホストまたはクラスタを選択できる新しいフィールドが表示されます。
[リソース プール (Resource Pool)] ドロップダウン リスト	リソース プールを選択します。
[ESXタイプ] ドロップダウン リスト	ESX のインストールタイプ ([ESX]、[ESXi]、または[両方 (both)]) を選択します。
[ESXバージョン] ドロップダウン リスト	ESX のバージョンを選択します。
[条件の最小値 (Minimum Conditions)] チェック ボックス	満たしている必要がある1つ以上の条件のチェックボックスをオンにします。これらの条件を満たしていないホストは検討から除外されます。複数の条件を選択した場合は、選択した条件すべてを満たしている必要があります。
展開オプション	
[テンプレートのオーバーライド (Override Template)] チェック ボックス	テンプレートのプロパティをオーバーライドするには、このチェック ボックスをオンにします。CPU とメモリのカスタム設定を入力できるオプションも用意されています。
[vCPU数 (Number of vCPUs)] フィールド	vCPU のカスタム数。VM に対して指定する vCPU の数は、選択されているホスト ノードまたはクラスタの範囲の総コア数を超えてはいけません。 (注) このオプションは、[テンプレートのオーバーライド (Override Template)] チェック ボックスをオンにした場合にのみ表示されます。

名前	説明
[CPU予約(MHz)] フィールド	<p>VM用に予約するCPU。予約は、指定したvCPUの数によって異なります。</p> <p>(注) このオプションは、[テンプレートのオーバーライド (Override Template)] チェックボックスをオンにした場合に表示されます。</p>
[CPUの制限(MHz)] フィールド	<p>VMに対するCPU制限。CPUの制限は、選択されたホストノードまたはクラスタのスコープに基づいています。</p>
[CPU共有 (CPU Shares)] ドロップダウンリスト	<p>CPU共有 ([低 (low)], [ノーマル (normal)], または [高 (high)]) を選択します。CPU共有により、VM間で競合が発生した場合に、どのVMがCPUリソースを取得するかが決定します。</p> <p>(注) このオプションは、[テンプレートのオーバーライド (Override Template)] チェックボックスをオンにした場合に表示されます。</p>
[メモリ (Memory)] フィールド	<p>VMのカスタムメモリ。</p> <p>(注) このオプションは、[テンプレートのオーバーライド (Override Template)] チェックボックスをオンにした場合に表示されます。</p>
[メモリ予約(MB) (Memory Reservation (MB))] フィールド	<p>VMのメモリ予約。予約は、指定したメモリによって異なります。</p> <p>(注) このオプションは、[テンプレートのオーバーライド (Override Template)] チェックボックスをオンにした場合に表示されます。</p>
[メモリ制限(MB)] フィールド	<p>VMに対するメモリ制限。メモリの制限は、選択されたホストノードまたはクラスタのスコープに基づいています。</p> <p>(注) このオプションは、[テンプレートのオーバーライド (Override Template)] チェックボックスをオンにした場合に表示されます。</p>

名前	説明
[メモリ共有 (Memory Shares)] ドロップダウン リスト	<p>メモリ共有 ([低 (low)]、[ノーマル (normal)]、または[高 (high)]) を選択します。メモリ共有により、VM間で競合が発生した場合に、どのVMがメモリリソースを取得するかが決定します。</p> <p>(注) このオプションは、[テンプレートのオーバーライド (Override Template)] チェックボックスをオンにした場合にのみ表示されます。</p>
サイズ変更オプション	
[VMのサイズ変更を許可 (Allow Resizing of VM)] チェックボックス	<p>プロビジョニング前のVMサイズの変更や、既存のVMのサイズの変更を許可するには、このチェックボックスをオンにします。</p>
[vCPUの許容値 (Permitted Values for vCPUs)] フィールド	<p>VMのプロビジョニング中、または既存のVMのサイズの変更中に使用するvCPUの範囲。選択したクラウド (vCenter) が5以上であり、かつVMバージョン8を使用している場合のみ、VMのプロビジョニングまたはサイズ変更時に8を超える範囲が表示されます。このボックスで指定された値だけが表示されます。</p> <p>(注) このオプションは、[VMのサイズ変更を許可 (Allow Resizing of VM)] チェックボックスをオンにした場合にのみ表示されます。</p>
[メモリの許容値 (MB 単位) (Permitted Values for Memory in MB)] フィールド	<p>VMのプロビジョニング中、または既存のVMのサイズの変更中に使用するメモリの範囲。例：512、768、1024、1536、2048、3072、4096 など。このボックスで指定された値だけが表示されます。</p> <p>(注) このオプションは、[VMのサイズ変更を許可 (Allow Resizing of VM)] チェックボックスをオンにした場合にのみ表示されます。</p>

ステップ5 [追加 (Add)] をクリックします。

ベアメタルサーバのプロビジョニングポリシーの設定

はじめる前に

- ベアメタルエージェント（BMA）アカウントは、ベアメタルOSイメージを使用して追加および設定する必要があります。
- Cisco UCS Manager アカウントを追加する必要があります。
- ベアメタルサーバに関連する特定のコストが必要な場合は、このポリシーを作成する前に、ベアメタルサーバのコストモデルを作成する必要があります。

- ステップ 1** メニューバーで、[ポリシー（Policies）]>[物理インフラストラクチャポリシー（Physical Infrastructure Policies）]>[ベアメタルサーバ（Bare Metal Servers）]の順に選択します。
- ステップ 2** [ベアメタルサーバのプロビジョニングポリシー（Bare Metal Server Provisioning Policy）]タブを選択します。
- ステップ 3** [追加（Add）]をクリックします。
- ステップ 4** [ベアメタルサーバのプロビジョニングポリシーの追加（Add Bare Metal Server Provisioning Policy）]ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[ポリシー名（Policy Name）]フィールド	ポリシーの一意の名前
[ポリシーの説明（Policy Description）]フィールド	ポリシーの説明。
[アカウント名（Account Name）]ドロップダウンリスト	アカウント名を選択します。
[サーバの選択範囲（Server Selection Scope）]ドロップダウンリスト	ポリシーの範囲を選択します。次のいずれかを設定できます。 <ul style="list-style-type: none"> • サーバ • サーバプール
[サーバ（Servers）]フィールド	このポリシーのサーバを選択します。
[サーバプール（Server Pools）]フィールド	このポリシーのサーバプールを選択します。
[サービスプロファイルのテンプレート（Service Profile Template）]ドロップダウンリスト	ドロップダウンリストからサービスプロファイルテンプレートを選択します。

名前	説明
[SANブートに使用する (Use for SAN Boot)]チェックボックス	少なくとも1つのFCoE対応インターフェイスカードを含むサーバを含めるには、このチェックボックスをオンにします。
[CPUの最小数 (minimum Number of CPUs)]フィールド	サーバに含める必要があるCPUの最小数を指定します。
[最小メモリ容量(MB) (Minimum Amount of Memory (MB))]フィールド	サーバ上で使用可能な最小メモリ量を指定します。
[有効なコアの最小数 (Minimum Number of Cores Enabled)]フィールド	サーバで有効になっているコアの数を指定します。
[ユーザがサーバを選択できる (Allow User to Choose Servers)]チェックボックス	ユーザがサーバを選択できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。
[ターゲット BMA (Target BMA)]ドロップダウンリスト	PXE 設定用のベアメタルエージェントを選択します。
[OS イメージ選択 (OS Image Selection)]ドロップダウンリスト	OS イメージを選択します。
ネットワーク管理	
[サーバの IP アドレス (Server IP Address)]フィールド	IP アドレスの範囲を指定します。
[サーバのネットマスク (Server Netmask)]フィールド	サーバのネットマスクを指定します。
[サーバのゲートウェイ (Server Gateway)]フィールド	サーバのゲートウェイ IP アドレスを指定します。
[ネームサーバ (Name Server)]	ネームサーバの IP アドレスを指定します。
[管理 VLAN (Management VLAN)]	管理VLANを指定します。デフォルトでは、0に設定されます。
システムパラメータ	
[サーバホスト名 (Server Host Name)]フィールド	サーバのホスト名。
[パスワード (Password)]フィールド	サーバのホスト名のパスワード。

名前	説明
[パスワードの確認 (Confirm Password)] フィールド	パスワードを再入力します。
[タイムゾーン (Timezone)] ドロップダウン リスト	サーバのタイムゾーンを設定します。
ポリシー	
[コストモデル (Cost Model)] ドロップダウン リスト	サーバのコストモデルを選択します。

ステップ 5 [送信 (Submit)] をクリックします。

データ コレクション ポリシー

データ コレクション ポリシーを作成して、各 VMware アカウントが vCenter から取得できるパラメータを制御できます。データ コレクション ポリシーで指定される各パラメータは収集され、Cisco UCS Director の特定のトレンドレポートで使用されます。



(注) VMware は、サポートされている唯一の仮想アカウントタイプです。VMware アカウントが追加されると、最初にデフォルトで [デフォルトのデータ コレクション ポリシー (default-data-collection-policy)] に関連付けられます。

仮想アカウントのデータ コレクション ポリシーの設定

- ステップ 1 メニューバーで、[ポリシー (Policies)][仮想/ハイパーバイザポリシー (Virtual/Hypervisor Policies)][サービスの提供 (Service Delivery)] > > を選択します。
- ステップ 2 [データコレクションポリシー (Data Collection Policy)] タブを選択します。
- ステップ 3 [追加 (Add)] (+) をクリックします。
- ステップ 4 [追加 (Add)] ダイアログ ボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[名前 (Name)] フィールド	データ コレクション ポリシーの名前。 (注) この名前は、カタログの定義時に使用されます。
[説明 (Description)] フィールド	ポリシーの説明
[アカウントタイプ (Account Type)] ドロップダウンリスト	VMware 仮想アカウントが選択されます。

名前	説明
[リソース (Resource)] ウィンドウ	<p>vCenter パラメータを含むデータ収集グループを選択します。たとえば、CPU などです。</p> <p>データ収集グループを編集するには、鉛筆アイコンをクリックします。データ収集を有効または無効にするには、[リソースエントリの編集 (Edit Resource Entry)] ダイアログ ボックスの [コレクションを有効にする (Enable Collection)] チェック ボックスをオンまたはオフにします。</p> <p>Cisco UCS DirectorGUI のデータストア固有のパフォーマンス データを表示するには、次のリソースを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • データストアのスループットはキロバイト/秒です。 • データストアの数の平均読み取り • データストアの数の平均書き込み • ディスク合計遅延はミリ秒です。 <p>ディスク遅延のレポートでは、上記に付け加えて、vCenter サーバのパフォーマンス データ統計コレクションレベルを 3 に設定します。</p> <p>スループット レポートでは、上記に付け加えて、vCenter サーバのパフォーマンス データ統計コレクションレベルを 4 に設定します。</p> <p>重要 vCenter サーバで統計コレクションをレベル 2 以上に増加させると、vCenter サーバと Cisco UCS Director のパフォーマンスに影響します。</p> <p>詳細については、https://kb.vmware.com/selfservice/microsites/search.do?language=ja_JP&cmd=displayKC&externalId=2003885 を参照してください。</p>

ステップ 5 [送信 (Submit)] をクリックします。

仮想アカウントのデータ コレクション ポリシーの関連付け

- ステップ 1 メニューバーで、[ポリシー (Policies)] > [仮想/ハイパーバイザポリシー (Virtual/Hypervisor Policies)] > [サービスの提供 (Service Delivery)] を選択します。
- ステップ 2 [データコレクションポリシーの関連付け (Data Collection Policy Association)] タブを選択します。
- ステップ 3 仮想 (VMware) アカウントを選択して [編集 (Edit)] をクリックします。
- ステップ 4 [編集 (Edit)] ダイアログ ボックスで、[ポリシー (Policy)] ドロップダウン リストから設定したデータ コレクション ポリシーを選択します。
- ステップ 5 [送信 (Submit)] をクリックします。
VMware アカウントにデータ コレクション ポリシーが関連付けられました。

グループの共有ポリシーについて

グループの共有ポリシーは、リソースのユーザと、ユーザが他のユーザと共有可能なものを、より詳細に制御できるようにします。このポリシーでは、ユーザは現在自分だけに割り当てられているリソースを表示し、またユーザが属するすべてのグループに割り当てられているリソースを表示できます。

グループを作成する場合は、グループの共有ポリシーを定義して、どのグループが読み取り/書き込み権限を持つかを決定できます。以降、ユーザがこのグループに追加されると、リソースに対するそのユーザのアクセス権は、グループの共有ポリシーによって決定されます。

グループ共有ポリシーの作成

- ステップ 1 メニューバーで、[管理 (Administration)] > [ユーザとグループ (Users and Groups)] の順に選択します。
- ステップ 2 [グループ共有ポリシー (Group Share Policy)] タブをクリックします。
- ステップ 3 [追加 (Add)] (+) をクリックします。
- ステップ 4 [ポリシーの追加 (Add Policy)] ダイアログ ボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[ポリシー名 (Policy Name)] フィールド	グループ共有ポリシーの名前。
[ポリシーの説明 (Policy Description)] フィールド	ポリシーの説明。

名前	説明
[MSP グループ共有ポリシー (MSP Group Share Policy)] チェック ボックス	1 つ以上の MSP 組織にこのポリシーを適用する場合、このボックスをオンにします。
[MSP 組織 (MSP Organizations)] フィールド	[選択 (Select)] をクリックして、このポリシーで定義されたリソースに対して読み取り/書き込み権限のある MSP 組織を選択します。 このフィールドは [MSP グループ共有ポリシー (MSP Group Share Policy)] チェック ボックスがオンの場合のみ使用可能です。
[顧客組織 (Customer Organizations)] フィールド	[選択 (Select)] をクリックして、このポリシーで定義されたリソースに対して読み取り/書き込み権限のある組織を選択します。

ステップ 5 [送信 (Submit)] をクリックします。

次の作業

システムのユーザグループにこのグループ共有ポリシーを関連付けることができます。権限に基づいて、それらのグループ内のユーザは、リソースに対する読み取り/書き込み権限を継承します。

ストレージポリシー

ストレージポリシーは、データストアの範囲、使用するストレージの種類、容量、遅延などの最小条件といったリソースを定義します。

ストレージポリシーでは、複数ディスクの追加ディスクポリシーを設定し、サービスリクエストの作成中に使用するデータストアを選択することもできます。



(注) Cisco UCS Director は、VM のプロビジョニングのためのサービス リクエストの作成中にデータストアを選択することをサポートしています。サービス リクエストの作成中にエンドユーザのデータストアの選択を有効または無効にできます。リストされるデータストアは、サービス リクエストの作成中に VDC に関連付けられたストレージポリシーで指定される範囲条件に依存します。

サービス リクエストの作成中にデータストアの選択機能を使用するには、VM のプロビジョニング用テンプレートに [システム (System)] ディスク タイプが割り当てられている必要があります。これは、単一または複数のディスクを含むテンプレートに適用されます。

複数ディスク VM のストレージポリシー

Cisco UCS Director は、複数データストア上の複数ディスクでの VM のプロビジョニングをサポートしています。

ディスクはシステム、データ、データベース、切替、ログという 5 つのタイプに分類されます。最初にシステム ディスク ポリシーが設定され、他のディスクは必要に応じて設定できます。各ディスクタイプに対して個別にディスクポリシーを設定することも、各ディスクに対してデフォルトのシステム ディスク ポリシーを選択することもできます。



(注) 複数ディスクを含むテンプレートに対するストレージポリシーの作成の詳細については、[複数ディスクの VM プロビジョニング](#)を参照してください。

ストレージポリシーの追加と設定

- ステップ 1 メニューバーで、[ポリシー (Policies)] > [仮想/ハイパーバイザポリシー (Virtual/Hypervisor Policies)] > [ストレージ (Storage)] を選択します。
- ステップ 2 [VMware ストレージポリシー (VMware Storage Policy)] タブを選択します。
- ステップ 3 [追加 (Add)] (+) をクリックします。
- ステップ 4 [ストレージリソース割り当てポリシーの追加 (Add Storage Resource Allocation Policy)] の [システムディスクポリシー (System Disk Policy)] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[ポリシー名 (Policy Name)] フィールド	リソース割り当てが発生するクラウドを選択します。

名前	説明
[ポリシーの説明 (Policy Description)] フィールド	<p>ポリシーの説明。</p> <p>導入の範囲を限定する場合は、すべてのデータストア、選択したデータストアのみ、もしくは、選択した以外のデータストアを導入するのかが選択します。</p>
[クラウド名 (Cloud Name)] ドロップダウン リスト	<p>このリソース割り当てを行うためのクラウドアカウントを選択します。</p> <p>SRM のアカウントを選択した場合、[保護の有効化 (Enable Protection)] チェック ボックスが表示されます。Site Recovery Manager 用の保護グループを有効にする方法の詳細については、『Cisco UCS Director VMware Management Guide [英語]』を参照してください。</p>
システム ディスク スコープ	
[リンク済み複製の使用 (Use Linked Clone)] チェック ボックス	<p>リンクの複製を使用するには、チェック ボックスをオンにします。</p> <p>このチェック ボックスをオンにしない場合、構成はフル複製を使用します。</p>
[ストレージプロファイル (Storage Profile)] ドロップダウン リスト	<p>関連付けられたストレージプロファイルの1つ以上のVMをプロビジョニングするには、ストレージプロファイルを選択します。</p>

名前	説明
<p>[データストア/データストア クラスタ範囲 (Data Stores/Data Store Clusters Scope)] ドロップダウンリスト</p>	<p>導入のスコープを定義するには、次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> •すべて (All) •選択したデータストアを含む •選択したデータストアを除外 •選択したデータストア クラスタを含む •選択したデータストア クラスタを除外 <p>どのオプションを選択するかによって、追加のフィールドが表示される場合があります。</p> <p>(注) 選択したオプションにより、VM ディスクの作成時にすべてのデータストアまたはデータストア クラスタのどちらを使用できるかが決まります。</p>
<p>[選択済みのデータストア (Selected Data Stores)] フィールド</p>	<p>[選択済みのデータストアを含める (Include Selected Datastore)] または [選択済みのデータストアを除外する (Exclude Selected Datastore)] を選択する場合、[選択 (Select)] をクリックし、適切なデータストアを選択します。</p>
<p>[共有データストアのみの使用 (Use Shared Data Store Only)] チェック ボックス</p>	<p>共有データストアのみを使用するには、このチェック ボックスをクリックします。</p> <p>このオプションは、選択したデータストアを含むか除外するかを選択した場合のみ使用可能です。</p>
<p>[選択済みデータストア クラスタ (Selected Datastore Clusters)] フィールド</p>	<p>[選択済みのデータストア クラスタを含める (Include Selected Datastore Clusters)] または [選択済みのデータストア クラスタを除外する (Exclude Selected Datastore Clusters)] を選択する場合、[選択 (Select)] をクリックし、適切なデータストア クラスタを選択します。</p>

名前	説明
[SDRS ルールタイプの選択 (SDRS Rule Type)] ドロップダウンリスト	<p>選択したデータストアを含むか除外するかを選択した場合、次のいずれかの SDRS ルールタイプを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [VMDK を同時に管理する (Keep VMDKs Together)] : フィルタリングされたクラスタで既存のルールを選択する必要があります。新しくプロビジョニングされた VM は VM のアンチアフィニティルールに追加されます。 • [VMDK を分ける (Separate VMDKs)] : 新しくプロビジョニングされた VM に複数のディスクが含まれている場合、新しい VM アフィニティルールはデータストアクラスタで作成されます。
[SDRS ルールの選択 (Select SDRS Rule)] フィールド	[VMDK を同時に管理する (Keep VMDKs Together)] を選択した場合、ルールを適応したい VM を選択する必要があります。
ストレージオプション	
[ローカルストレージの使用 (Use Local Storage)] チェック ボックス	デフォルトでは、このフィールドはオンです。ローカルストレージを使用しない場合は、このチェックボックスをオフにします。
[NFSの使用 (Use NFS)] チェック ボックス	デフォルトでは、このフィールドはオンです。NFSストレージを使用しない場合は、チェックボックスをオフにします。
[VMFS の使用 (Use VMFS)] チェック ボックス	デフォルトでは、このフィールドはオンです。VMFSストレージを使用しない場合は、チェックボックスをオフにします。
[SANの使用 (Use SAN)] チェック ボックス	デフォルトでは、このフィールドはオンです。SANストレージを使用しない場合は、チェックボックスをオフにします。

名前	説明
[フィルタ条件 (Filter Conditions)] チェック ボックス	<p>1つ以上の条件をデータストアフィルタに追加したい場合、次の各要求条件を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 該当するチェックボックスをクリックします。 • ドロップダウン リストから必要なオプションを選択します。 • どのデータストア フィルタを実行する条件を入力します。 <p>これらの条件を満たしていないデータストアは検討から除外されます。複数の条件を選択する場合、すべての条件が一致する必要があります。</p>
[テンプレートのオーバーライド (Override Template)] チェック ボックス	<p>テンプレートのプロパティをオーバーライドするには、このチェック ボックスをオンにします。シンプロビジョニングの使用やカスタム ディスク サイズの設定など、カスタム設定を入力するオプションが提供されます。</p>
[シンプロビジョニングの使用 (Use Thin Provisioning)] チェック ボックス	<p>VMストレージのプロビジョニングの際にシンプロビジョニングを使用するには、このチェック ボックスをオンにします。</p> <p>シンプロビジョニングは、物理ストレージ容量の動的割り当てをイネーブルにし、VMストレージの使用率が向上します。</p> <p>このオプションは、[テンプレートのオーバーライド (Override Template)]を選択した場合にのみ表示されます。</p>
[手動ディスクサイズ (Manual Disk Size)]	<p>カスタム ディスク サイズは、VM のプロビジョニングに使用されるテンプレートのディスク サイズをオーバーライドします。</p> <p>このオプションは、[テンプレートのオーバーライド (Override Template)]を選択した場合にのみ表示されます。</p>
VM ライフサイクルのサイズ変更オプション	
[ディスクのサイズ変更を許可 (Allow Resizing of Disk)] チェック ボックス	<p>プロビジョニングする前に、VMのディスク サイズを選択するオプションをエンド ユーザに表示する場合はチェック ボックスをオンにします。</p>

名前	説明
[ディスクの許容値(GB単位) (Permitted Values for Disk in GB)]フィールド	VMのプロビジョニング中に選択したディスクサイズ値のカスタム範囲を指定します。たとえば、1、5、10、50、100、500、1024、5120、10240 などです。 このオプションは、[ディスク サイズの変更許可 (Allow Resizing of Disk)]を選択した場合にのみ表示されます。
[スコープからのデータストアの選択をユーザに許可します (Allow user to select datastores from scope)]チェック ボックス	このチェックボックスをオンにすると、エンドユーザはサービス リクエストの作成中にデータストアを選択できるようになります。

ステップ 5 [次へ (Next)]をクリックします。

ステップ 6 [追加ディスク ポリシー (Additional Disk Policies)]ペインで、次のいずれかを実行します。

- システム ディスク ポリシーにおいてディスク タイプに同じディスク ポリシーを設定したくない場合、設定したいディスク タイプを選択します。
- すべてのディスクの種類にシステム ディスク ポリシー オプションを使用するには、[次へ (Next)]をクリックします。

(注) デフォルトでは、ディスクのディスクポリシーは、[ストレージリソース割り当てポリシーの追加 (Add Storage Resource Allocation Policy)]ペインで設定したシステムディスクポリシーと同じです。

ステップ 7 特定のディスク タイプのカスタムシステムディスクポリシーを設定した場合は、次の操作を実行します。

- a) ディスク タイプを編集するには、[編集 (Edit)] (鉛筆) をクリックします。
- b) [ポリシー項目の編集 (Edit Policies Entry)]ダイアログボックスで、[システムディスクポリシーと同じ (Same as System Disk Policy)]チェックボックスをオフにします。
- c) [エントリの編集 (Edit Entry)]ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。
ここに表示されるすべてのフィールドが[ストレージリソース割り当てポリシーの追加 (Add Storage Resource Allocation Policy)]ペインに表示されるフィールドと同じです。

(注) この設定は、VMディスクの作成時にどのデータストアがディスクのタイプに使用できるかを決定します。

- d) [送信 (Submit)]をクリックします。
- e) 他のディスクタイプを設定するには、必要に応じてこれらの手順を繰り返します。

(注) その他のディスクポリシーで作成されたストレージポリシーを使用するには、VMのプロビジョニングに使用されるVDCとポリシーを関連付けます。

ステップ 8 [次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 9 [ハードディスク ポリシー (Hard Disk Policy)] ペインでは、VM のプロビジョニング時に作成する物理ディスクの数を指定できます。

a) [+] をクリックして、ディスクを追加し、次のフィールドに値を入力します。

フィールド	説明
[ディスクラベル (Disk Label)] フィールド	追加するディスクを説明するラベル。
[ディスク サイズ (GB) (Disk Size(GB))] フィールド	ディスクのサイズ。
[ディスク タイプ (Disk Type)] ドロップダウンリスト	ディスク タイプを選択します。 このドロップダウンリストに表示されるオプションは、[システム ポリシーと同様 (Same as System Policy)] チェック ボックスを先の手順で選択したかによって異なります。
コントローラ オプション	
[コントローラ タイプ (Controller Type)] ドロップダウンリスト	ドロップダウンリストから、コントローラ タイプを選択します。 ポートの応答可能性に基づいて、コントローラは、VM ディスクにマッピングされます。
[新しいコントローラのディスクを作成 (Create Disk on new Controller)] チェック ボックス	新しいコントローラを作成する場合に、このチェック ボックスをオンにします。 コントローラ タイプは、[コントローラ タイプ (Controller Type)] ドロップダウンリストで作成された選択肢に基づいています。
ディスク プロビジョニング オプション	
[ディスク プロビジョニング オプション (Disk Provisioning Options)] ラジオ ボタン	指定したいプロビジョニングのラジオ ボタンをチェックします。次のいずれかを指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> • [シン プロビジョニング (Thin Provision)] • [シック プロビジョニング (Lazy Zeroed) (Thick Provision Lazy Zeroed)] • [シック プロビジョニング (eager Zeroed) (Thick Provision eager Zeroed)]
VM ライフサイクルのサイズ変更オプション	

フィールド	説明
[ディスクのサイズ変更を許可 (Allow Resizing of Disk)] チェック ボックス	このチェック ボックスをオンにすると、プロビジョニングする前に、VMディスク サイズを選択できるようになります。
[ディスクの許容値(GB単位) (Permitted Values for Disk in GB)] フィールド	このオプションは、[ディスクのサイズ変更を許可] がオンの場合に表示されます。 VMのプロビジョニング中に選択したディスク サイズ値のカスタム範囲を指定します。たとえば、1、5、10、50、100、500、1024、5120、10240 などです。
[スコープからのデータストアの選択をユーザに許可します (Allow user to select datastore from scope)] チェック ボックス	このチェック ボックスをオンにすると、ユーザは サービスリクエストの作成中にデータストアを選択できるようになります。

ステップ 10 [送信 (Submit)] をクリックします。

(注) 追加ディスク ポリシーを使用して作成されるストレージ ポリシーを使用するには、VM のプロビジョニングに使用される VDC とポリシーを関連付ける必要があります。

設定された追加ディスク ポリシーをポリシーで使用する場合は、複数ディスク テンプレートのカタログ作成中に、[単一データストアのすべてのディスクをプロビジョニングします (Provision all disks in a single database)] チェック ボックスを必ずオフにしてください。カタログの作成方法の詳細については、[カタログの管理](#)を参照してください。

仮想ストレージ カタログ

ストレージポリシーをカスタマイズするために仮想ストレージカタログを使用できます。仮想ストレージカタログを使用して、複数のストレージポリシーを選択し、カスタムストレージのエントリ名を指定できます。

ストレージカタログは、カタログの作成中にそれを有効化することにより、カタログにマッピングします。カタログを使用してサービス要求を出すとき、[ストレージ階層 (Storage Tier)] を選択することができます。

仮想ストレージカタログの設定

- ステップ1 メニューバーで、[ポリシー (Policies)] > [仮想/ハイパーバイザポリシー (Virtual/Hypervisor Policies)] > [ストレージ (Storage)] を選択します。
- ステップ2 [仮想ストレージのカタログ (Virtual Storage Catalog)] タブを選択します。
- ステップ3 [追加 (Add)] (+) をクリックします。
- ステップ4 [仮想ストレージのカタログ (Virtual Storage Catalog)] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[カタログ名 (Catalog Name)] フィールド	カタログの名前。 この名前は、カタログ カスタム アクションの定義中に使用されます。
[カタログの説明 (Catalog Description)] フィールド	カタログの説明。
[クラウド名 (Cloud Name)] ドロップダウン リスト	クラウドアカウントを選択します。
[エン트리数の選択 (Choose No of Entries)] ドロップダウン リスト	エン 트리数を選択します。指定できる範囲は1～10です。選択した内容に応じて、次のダイアログボックスにストレージエン 트리 オプションが表示されます。

- ステップ5 [Next] をクリックします。
- ステップ6 [エン 트リの追加 (Add Entries)] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[ストレージエン 트리 #1 (Storage Entry #1)]	
[ストレージエン 트리名 (Storage Entry Name)] フィールド	ストレージエン 트리の名前。
[ストレージポリシー (Storage Policy)] ドロップダウン リスト	ストレージポリシーを選択します。
[ストレージエン 트리 #2 (Storage Entry #2)]	
[ストレージエン 트리名 (Storage Entry Name)] フィールド	2番目のポリシーのストレージエン 트리名。

名前	説明
[ストレージポリシー (Storage Policy)] ドロップダウン リスト	ストレージ ポリシーを選択します。

ステップ7 [送信 (Submit)] をクリックします。

次の作業

- カタログの作成中に仮想ストレージ カタログをマッピングできます。
「[カタログの管理](#)」を参照してください。
- サービス リクエストの作成中にストレージ階層オプションを表示できます。
「[セルフサービス プロビジョニング](#)」を参照してください。

ネットワーク ポリシー

ネットワーク ポリシーには、ネットワーク設定、DHCP、スタティック IP などのリソースに加え、このポリシーを使用してプロビジョニングされた VM に対して複数の vNIC を追加するためのオプションも含まれています。

スタティック IP プール ポリシーの追加

ネットワーク ポリシーで使用できるスタティック IP プールポリシーを設定できます。(オプション)

ステップ1 メニュー バーで、[ポリシー (Policies)] > [仮想/ハイパーバイザポリシー (Virtual/Hypervisor Policies)] > [ネットワーク (Network)] を選択します。

ステップ2 [スタティックIPプールポリシー (Static IP Pool Policy)] タブを選択します。

ステップ3 [追加 (Add)] (+) をクリックします。

ステップ4 [静的IPプールポリシー情報 (Static IP Pool Policy Information)] ダイアログ ボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[ポリシー名 (Policy Name)] フィールド	IP プール ポリシーの名前
[ポリシーの説明 (Policy Description)] フィールド	IP プール ポリシーの説明

名前	説明
[IP オーバーラップの許可 (Allow IP Overlap)] ドロップダウン リスト	<p>IP の重複が許可されるかどうかを指定します。デフォルトでは、IP の重複は無効になっています。</p> <p>IP の重複を有効にすると、次のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • IP プールを作成し、重複した IP アドレスをプールの内部に保持することができます。 • 2 つのスタティック IP プールを作成し、プール間で重複した IP アドレスを保持することができます。
[範囲 (Scope)] ドロップダウン リスト	<p>重複 IP プールの範囲</p> <p>次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • MSP 組織 このオプションは MSP を有効にした場合のみ表示されます。 • グループ/お客様の組織 • コンテナ <p>(注) このオプションは、[IP オーバーラップの許可 (Allow IP Overlap)] ドロップダウン リストから [はい (Yes)] を選択した場合のみ表示されます。</p>
[ユーザ グループ ID (User Group ID)] フィールド	<p>[選択 (Select)] をクリックして、ポリシー用ユーザ グループのチェック ボックスをオンにします。システムで作成されたすべてのユーザまたはグループが表示されます。</p>
[コンテナ ID (Container ID)] フィールド	<p>[選択 (Select)] をクリックして、コンテナのチェック ボックスをオンにします。</p>

ステップ 5 [スタティック IP プール] セクションの [+] をクリックして、複数のスタティック IP プールを追加して設定します。

ステップ 6 [静的IPプールへのエントリの追加 (Add Entry to Static IP Pools)] ダイアログ ボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[静的IPプール (Static IP Pool)]フィールド	スタティック IP プール。 10.5.0.1 - 10.5.0.50、10.5.0.100、10.5.1.20-10.5.1.70 などです。
[サブネットマスク (Subnet Mask)]フィールド	プールのサブネット マスク。255.255.255.0 などです。
[ゲートウェイ IP アドレス (Gateway IP Address)]フィールド	このネットワークのデフォルト ゲートウェイの IP アドレス。
[VLAN ID] フィールド	部門に使用する VLAN ID有効な VLAN ID の範囲を入力します。

ステップ 7 [送信 (Submit)] をクリックします。

ステップ 8 [スタティック IP ポリシー情報 (Static IP Policy Information)] ダイアログ ボックスで [送信 (Submit)] をクリックします。

IP サブネット プール ポリシーの設定

ステップ 1 メニューバーで、[ポリシー (Policies)] > [仮想/ハイパーバイザポリシー (Virtual/Hypervisor Policies)] > [ネットワーク (Network)] を選択します。

ステップ 2 [IP サブネット プール ポリシー (IP Subnet Pool Policy)] タブを選択します。

ステップ 3 [追加 (Add)] をクリックします。

ステップ 4 [IP サブネット プール ポリシー情報 (IP Subnet Pool Policy Information)] ダイアログ ボックスで、次のフィールドに値を入力します。

フィールド	説明
[ポリシー名 (Policy Name)] フィールド	ポリシーの名前。
[ポリシーの説明 (Policy Description)] フィールド	ポリシーの説明。
[ネットワーク スーパーネット アドレス (Network Supernet Address)] フィールド	ネットワーク スーパーネット アドレス

フィールド	説明
[ネットワーク サブネット マスク (Network Subnet Mask)] フィールド	ネットワーク スーパーネット マスク。
[要求サブネット数 (Number of Subnets Required)] ドロップダウン リスト	組織に必要なサブネット数を選択します。
[ゲートウェイアドレス (Gateway Address)] ドロップダウン リスト	ゲートウェイアドレスインデックスを選択します。
[IP オーバーラップの許可 (Allow IP Overlap)] ドロップダウン リスト	<p>IP の重複が許可されるかどうかを指定します。デフォルトでは、IP の重複は無効になっています。</p> <p>IP の重複を有効にすると、次のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • IP プールを作成し、重複した IP アドレスをプールの内部に保持することができます。 • 2 つの IP サブネット プールを作成し、プールの中で重複した IP アドレスを保持することができます。
[範囲 (Scope)] ドロップダウン リスト	<p>重複 IP サブネット プールの範囲次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • MSP 組織 このオプションは MSP を有効にした場合にのみ表示されます。 • グループ/お客様の組織 • コンテナ <p>(注) このオプションは、[IP オーバーラップの許可 (Allow IP Overlap)] ドロップダウン リストから [はい (Yes)] を選択した場合のみ表示されます。</p>

重要 IP の重複を有効にして、ポリシーを作成する場合、最初に同じ IP 範囲で作成された他の IP サブ ネット プール ポリシーがあるかどうかを判断する必要があります。この他のポリシーが IP の重複を有効にしている場合、エラーなしで追加のポリシーを作成できます。ただし、事前に作成された IP サブ ネット ポリシーで、IP の重複を有効にして作成したポリシーと同じ IP 範囲を指定した場合は、実行できません。IP の重複を有効にせずにポリシーを作成した場合には、同じ挙動になります。

IP の重複を有効にせずにポリシーを作成した場合、最初に同じ IP 範囲で作成された他の IP サブ ネット プール ポリシーがあるかどうかを判断する必要があります。事前に作成されたプール ポリシーが IP の重複を有効にしていた場合、IP の重複を無効にして他のポリシーを作成するために同じ IP 範囲を指定することはできません。

ステップ 5 [送信 (Submit)] をクリックします。

ネットワーク ポリシーの追加

ステップ 1 メニューバーで、[ポリシー (Policies)] > [仮想/ハイパーバイザ ポリシー (Virtual/Hypervisor Policies)] > [ネットワーク (Network)] の順に選択します。

ステップ 2 [VMware ネットワーク ポリシー (VMware Network Policy)] タブを選択します。

ステップ 3 [追加 (Add)] (+) をクリックします。

ステップ 4 [ネットワーク ポリシーの情報 (Network Policy Information)] ダイアログ ボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[ポリシー名 (Policy Name)] フィールド	ネットワーク ポリシーの名前。
[ポリシーの説明 (Policy Description)] フィールド	ネットワーク ポリシーの説明。
[クラウド名 (Cloud Name)] ドロップダウン リスト	ポリシーが適用されるクラウド アカウントを選択します。
[エンド ユーザにオプションの NIC の選択を許可 (Allow end user to select optional NICs)] チェック ボックス	サービス リクエストの導入設定の作成中に vNIC を選択できるようにするには、このチェック ボックスをオンにします。
[VM ネットワーク (VM Networks)] フィールド	VM ネットワークに新しいエントリを追加する場合は、[+] をクリックします。

ステップ 5 複数の vNIC を追加して設定するには、[VM ネットワーク (VM Networks)] セクションで [追加 (Add)] (+) をクリックします。これらの vNIC は、このポリシーを使用してプロビジョニングされる VM に適用できます。

(注) VM アクションを使用してプロビジョニングまたは検出された VM の vNIC を追加または交換するには、vNIC を設定する必要があります。

ステップ 6 [VM ネットワークへのエントリの追加 (Add Entry to VM Networks)] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[NIC エイリアス (NIC Alias)] フィールド	新しい NIC の名前。
[必須 (Mandatory)] チェック ボックス	[ネットワーク ポリシー情報 (Network Policy Information)] ダイアログ ボックスの [エンド ユーザにオプションの NIC の選択を許可 (Allow end user to select optional NICs)] チェック ボックスがオンの場合、このチェック ボックスはあらかじめチェックされています。[ネットワーク ポリシー情報 (Network Policy Information)] ダイアログ ボックスが選択されておらず、かつこのチェック ボックスがオンでない場合は、[NIC エイリアス (NIC Alias)] フィールドはオプションです。 (注) 少なくとも 1 つの NIC で [必須 (Mandatory)] オプションが選択されている必要があります。[必須 (Mandatory)] オプションが選択されている NIC は VM のプロビジョニングで使用されます。VM サービス リクエストの作成中にはユーザのオプションはありません。
[エンド ユーザによるポートグループ選択を許可 (Allow end user to choose portgroups)] チェック ボックス	プロビジョニング中にエンドユーザがポートグループを選択できるようにするには、このチェック ボックスをオンにします。
[ポリシーレベルポートグループの表示 (Show policy level portgroups)] チェック ボックス	このチェック ボックスと共に [エンドユーザにポートグループの選択を許可 (Allow end users to choose portgroups)] チェック ボックスをオンにすると、ポリシー内の NIC で選択されたすべてのポートグループがリストされます。

名前	説明
[テンプレートからアダプタをコピーする (Copy Adapter from Template)]チェック ボックス	カスタム設定が不要な場合は、このチェック ボックスをオンにします。カスタム設定する場合は、このチェック ボックスをオフにします。 [アダプタのタイプ (Adapter Type)] ドロップダウン リストは、このチェック ボックスをオンにすると表示されません。
[エンドユーザに IP アドレスのオーバーライドを許可 (Allow the end user to override IP Address)]チェック ボックス	ユーザに IP アドレスのオーバーライドを許可するには、このチェック ボックスをオンにします。
[アダプタのタイプ (Adapter Type)] ドロップダウン リスト	アダプタ タイプを選択します。テンプレートで使用可能なアダプタ タイプと同じタイプがユーザに必要な場合は、このオプションを選択します。 (注) [テンプレートからアダプタをコピーする (Copy Adapter from Template)] オプションが選択されている場合は、このオプションは表示されません。

ステップ 7 [ポートグループ (Port Groups)] セクションで、[追加 (Add)] (+) をクリックします。[ポートグループへのエントリの追加 (Add Entry to Port Groups)] ダイアログ ボックスが表示されます。

ステップ 8 [選択 (Select)] をクリックして、ポートグループ名を選択します。

ステップ 9 [IP アドレスのタイプの選択 (Select IP Address Type)] ドロップダウン フィールドで、[DHCP] (デフォルト) または [固定 (Static)] を選択します。

- a) [固定 (Static)] を選択した場合は、[IPプールポリシー (IP Pool Policy)] (デフォルト) または [インラインIPプール (Inline IP Pool)] を選択する必要があります。
[IPプールポリシー (IP Pool Policy)] を選択した場合は、[静的IPプールを選択する (Select to choose a static IP pool)] をクリックします。[選択 (Select)] ダイアログ ボックスで、事前設定されたスタティック IP プールのリストから選択します。事前設定されたスタティック IP プールが存在しない場合、詳細については「スタティック IP ポリシーの追加」を参照してください。
- b) [インライン IP プール (Inline IP Pool)] を選択する場合は、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[静的IPプール (Static IP Pool)] フィールド	スタティック IP プール。10.5.0.1 - 10.5.0.50、10.5.0.100、10.5.1.20-10.5.1.70 などです。
[サブネットマスク (Subnet Mask)] フィールド	プールのサブネットマスク。255.255.255.0 などです。

名前	説明
[ゲートウェイ IP アドレス (Gateway IP Address)] フィールド	このネットワークのデフォルトゲートウェイの IP アドレス。
[IP オーバーラップの許可 (Allow IP Overlap)] ドロップダウン リスト	IP の重複が許可されるかどうかを指定します。デフォルトでは、IP の重複は無効になっています。 IP の重複を有効にすると、次のようになります。 <ul style="list-style-type: none"> • IP プールを作成し、重複した IP アドレスをプールの内部に保持することができます。 • 2つのスタティック IP プールを作成し、プールの間で重複した IP アドレスを保持することができます。
[範囲 (Scope)] ドロップダウン リスト	重複 IP プールの範囲次のオプションがあります。 <ul style="list-style-type: none"> • MSP 組織 このオプションは MSP を有効にした場合にのみ表示されます。 • グループ/お客様の組織 • コンテナ <p>(注) このオプションは、[IP オーバーラップの許可 (Allow IP Overlap)] ドロップダウンリストから [はい (Yes)] を選択した場合のみ表示されます。</p>
[ユーザ グループ ID (User Group ID)] フィールド	[選択 (Select)] をクリックして、ユーザ グループのチェック ボックスをオンにします。システムで作成されたすべてのユーザまたはグループが表示されます。
[コンテナ ID (Container ID)] フィールド	[選択 (Select)] をクリックして、コンテナのチェック ボックスをオンにします。

ステップ 10 IPv6 を設定するには、[IPv6] チェック ボックスをオンにします。
IPv4 設定で指定したフィールドと同じフィールドを設定する必要があります。

ステップ11 [送信 (Submit)]をクリックします。

ステップ12 [VM ネットワークへのエントリの追加 (Add Entry to VM Networks)]ダイアログ ボックスで、[送信 (Submit)]をクリックします。

ステップ13 [ネットワーク ポリシーの情報 (Network Policy Information)]ダイアログ ボックスで、[送信 (Submit)]をクリックします。

ネットワークングプロビジョニングポリシー

ネットワーク プロビジョニング ポリシーは、オーケストレーションワークフローのタスクで使用されます。このポリシーは、レイヤ2のネットワーク設定、およびネットワーク内のスイッチに対するアクセスコントロールリスト (ACL) を定義します。

ネットワーク プロビジョニング ポリシーの設定

ステップ1 メニューバーで、[ポリシー (Policies)]>[仮想/ハイパーバイザポリシー (Virtual/Hypervisor Policies)]>[ネットワーク (Network)]を選択します。

ステップ2 [ネットワークプロビジョニングポリシー (Network Provisioning Policy)]タブを選択します。

ステップ3 [追加 (Add)]をクリックします。

ステップ4 [ポリシーの追加 (Add Policy)]ダイアログ ボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[全般情報 (General Information)]	
[ポリシー名 (Policy Name)]フィールド	ポリシーの名前。
[ポリシーの説明 (Policy Description)]フィールド	ポリシーの説明。
[L2ネットワーク設定 (VLAN)]	

名前	説明
[プライベート VLAN の使用 (Use Private VLAN)] チェック ボックス	<p>オンにすると、次のフィールドにデータが自動的に取り込まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [プライベートVLANタイプ (Private VLAN Type)] : コミュニティ • [プライマリVLAN ID (Primary VLAN ID)] : 0 • [セカンダリVLANの範囲 - 開始ID (Secondary VLAN Range—Starting ID)] : 500 • [セカンダリVLANの範囲 - 終了ID (Secondary VLAN Range—Ending ID)] : 1000
[VLAN範囲 - 開始ID (VLAN Range - Starting ID)] フィールド	VLANの範囲の開始ID。500はデフォルトの範囲開始IDです。
[VLAN範囲 - 終了ID (VLAN Range - Ending ID)] フィールド	VLANの範囲の終了ID。1000はデフォルトの範囲終了IDです。
[基本プロファイル名 (Base Profile Name)] フィールド	VLANベースプロファイル名。1つ以上のネストされたプロファイル割り当てを含むプロファイルです。
[アクセス コントロール リスト (Access Control List)]	
[ACLタイプ (ACL Type)] ドロップダウン リスト	デフォルトでは、[Simple]に設定されます。これは、現在使用可能な唯一のオプションです。
[ICMP を許可 (Allow ICMP)] チェック ボックス	VLANのICMPを許可するには、このチェックボックスをオンにします。

名前	説明
[TCPポートへの着信トラフィックを許可 (Permit Incoming Traffic to TCP Ports)] フィールド	<p>[選択 (Select)] ボタンをクリックします。[項目の選択 (Select Items)] ダイアログ ボックスが表示されます。次のオプションを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • FTP • SSH • Telnet • SMTP • POP3 • HTTP • HTTPS • MySQL <p>選択する各オプションの横のチェック ボックスをオンにするか、または [すべてオン (Check All)] ボタンをクリックします。以前の入力クリアするには、[すべてオフ (Check None)] ボタンをクリックします。</p>
[UDPポートへの着信トラフィックを許可 (Permit Incoming Traffic to UDP Ports)] フィールド	<p>[選択 (Select)] ボタンをクリックします。[項目の選択 (Select Items)] ダイアログ ボックスが表示されます。次のオプションを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SNMP • Syslog <p>選択する各オプションの横のチェック ボックスをオンにするか、または [すべてオン (Check All)] ボタンをクリックします。以前の入力クリアするには、[すべてオフ (Check None)] ボタンをクリックします。</p>

ステップ 5 [送信 (Submit)] をクリックします。

VLAN プール ポリシー

VLAN プール ポリシーはポッドに対する VLAN の範囲を定義します。このポリシーは、ポリシーで指定された定義済み範囲からフリーの VLAN ID を生成するためにオーケストレーションワークフローで使用されます。

VLAN プール ポリシーの設定

- ステップ 1** メニューバーで、[ポリシー (Policies)] > [仮想/ハイパーバイザポリシー (Virtual/Hypervisor Policies)] > [ネットワーク (Network)] を選択します。
- ステップ 2** [VLAN プールポリシー (VLAN Pool Policy)] タブを選択します。
- ステップ 3** [追加 (Add)] (+) をクリックします。
- ステップ 4** [ポリシーの追加 (Add Policy)] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[POD] ドロップダウン リスト	ポッドを選択できます。
[ポリシー名 (Policy Name)] フィールド	ポリシー名。このポリシー名はオーケストレーションワークフローで使用されます。
[ポリシーの説明 (Policy Description)] フィールド	ポリシーの説明。
[VLAN 範囲 (VLAN Range)] フィールド	VLAN の範囲。たとえば、1,3,5—15 などです。

- ステップ 5** [送信 (Submit)] をクリックします。

システム ポリシー

システム ポリシーは、使用するテンプレート、タイムゾーン、OS 情報など、システムに固有の情報を定義します。

システムポリシーの設定

- ステップ 1** メニューバーで、[ポリシー (Policies)] > [仮想/ハイパーバイザポリシー (Virtual/Hypervisor Policies)] > [サービスの提供 (Service Delivery)] を選択します。
- ステップ 2** [VMWare システムポリシー (VMware System Policy)] タブを選択します。
- ステップ 3** [追加 (Add)] (+) をクリックします。
- ステップ 4** [システムポリシー情報 (System Policy Information)] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[ポリシー名 (Policy Name)] フィールド	ポリシーの名前。この名前は、カタログの定義時に使用されます。
[ポリシーの説明 (Policy Description)] フィールド	ポリシーの説明。
[VM 名のテンプレート (VM Name Template)] フィールド	使用する VM 名テンプレート。 Cisco UCS Director では VM 名の自動作成が可能です。VM 名は、一連の変数名を使用して自動的に作成できます。各変数は <code>\${VARIABLE_NAME}</code> のようにかっこで囲む必要があります。例： <code>vm-\${GROUP_NAME}-SR\${SR_ID}</code>
[VM 名の検証ポリシー (VM Name Validation Policy)] ドロップダウン リスト	VM 名の検証ポリシーが選択できます。このリストには、以前作成したポリシーが入力されます。

- ステップ 5** 次に示すオプションの [VM 名のテンプレート (VM Name Template)] 機能から選択します。

名前	説明
[エンドユーザーVM名またはVMプレフィクス (End User VM Name or VM Prefix)] チェック ボックス	VM プロビジョニングのためのサービスリクエストの作成中にユーザーが VM 名または VM プレフィクスを追加できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。
[導入後に電源をオンにします (Power On after deploy)] チェック ボックス	このポリシーを使用して導入されたすべての VM の電源を自動的にオンにするには、このチェックボックスをオンにします。
[ホスト名のテンプレート (Host Name Template)] フィールド	一連の変数名を使用して自動的に作成できる VM ホスト名。各変数は <code>\${VARIABLE}</code> のようにかっこで囲む必要があります。

名前	説明
[ホスト名の検証ポリシー (Host Name Validation Policy)] ドロップダウンリスト	ホスト名の検証ポリシーを選択します。このリストには、以前作成したポリシーが入力されます。

ステップ 6 次のフィールドに入力します。

名前	説明
[Linuxタイムゾーン (Linux Time Zone)] ドロップダウンリスト	時間帯を選択します。
[Linux VM最大ブート待機時間 (Linux VM Max Boot Wait Time)] ドロップダウンリスト	Linux VM の最大ブート待機時間を選択します。
[DNSドメイン (DNS Domain)] フィールド	VM に使用する IP ドメイン。
[DNSサフィックスリスト (DNS Suffix List)] フィールド	DNS ルックアップ用に設定する DNS サフィックス。複数のエントリを指定する場合は、カンマで区切ります。
[DNSサーバリスト (DNS Server List)] フィールド	DNS サーバの IP アドレスのリスト。複数のエントリを指定する場合は、カンマで区切ります。
[VMイメージのタイプ (VM Image Type)] ドロップダウンリスト	VM にインストールされているイメージの OS を選択します。次のいずれかを選択できます。 <ul style="list-style-type: none"> • Windows と Linux • Linux のみ
Windows	
[製品ID (Product ID)] フィールド	Windows 製品 ID またはライセンス キー。製品 ID またはライセンス キーはここに入力するか、または OS ライセンス プールで入力できます。OS ライセンス プールで入力したキーは、ここで入力するキーよりも優先されます。
[ライセンスの所有者名 (License Owner Name)] フィールド	Windows ライセンスの所有者名。
[組織 (Organization)] フィールド	VM で設定する組織名。

名前	説明
[ライセンスモード (License Mode)] ドロップダウンリスト	[シート別 (per-seat)] または [サーバ別 (per-server)] を選択します。
[ライセンスユーザ数 (Number of License Users)]	ライセンス ユーザまたは接続の数。
[WINSサーバリスト (WINS Server List)] フィールド	WINS サーバの IP アドレス。複数のエントリを指定する場合は、カンマで区切ります。
[Windows VM最大ブート待機時間 (Windows VM Max Boot Wait Time)] ドロップダウンリスト	Windows VM の最大ブート待機時間を選択します。
[一意のSIDの作成 (Create a unique SID)] チェックボックス	システムに一意のSIDを作成する場合は、チェックボックスをオンにします。
[自動ログイン (Auto Logon)] チェック ボックス	自動ログインを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。
[自動ログイン回数 (Auto Logon Count)] フィールド	自動ログオンの実行回数。
[管理者パスワード (Administrator Password)] フィールド	管理者アカウントのパスワード。
[Windowsタイムゾーン (Windows Time Zone)] ドロップダウンリスト	Windows VM に設定する必要があるタイムゾーンを選択します。
[ドメインまたはワークグループ (Domain/Workgroup)] ドロップダウンリスト	[ドメイン (Domain)] または [ワークグループ (Workgroup)] を選択します。
[ワークグループ (Workgroup)] フィールド	ワークグループの名前。 このオプションは、[ワークグループ (Workgroup)] が [ドメインまたはワークグループ (Domain/Workgroup)] ドロップダウンリストの値として選択されている場合に、表示されます。
[ドメイン (Domain)] フィールド	Windows ドメインの名前。 (注) このオプションは、[ドメイン (Domain)] が [ドメインまたはワークグループ (Domain/Workgroup)] ドロップダウンリストの値として選択されている場合に、表示されます。

名前	説明
[ドメインユーザ名 (Domain Username)]フィールド	<p>Windows ドメイン管理者のユーザ名。</p> <p>(注) このオプションは、[ドメイン (Domain)] が [ドメインまたはワークグループ (Domain/Workgroup)] ドロップダウンリストの値として選択されている場合に、表示されます。</p>
[ドメインパスワード (Domain Password)]フィールド	<p>Windows ドメイン管理者のパスワード</p> <p>(注) このオプションは、[ドメイン (Domain)] が [ドメインまたはワークグループ (Domain/Workgroup)] ドロップダウンリストの値として選択されている場合に、表示されます。</p>

名前	説明
[VMアノテーションの定義 (Define VM Annotation)] チェック ボックス	

名前	説明
	<p>VMのアノテーションを指定するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>アノテーションの一部としてメモおよびカスタム属性を指定できます。このチェックボックスをオンにした場合は、次のフィールドに値を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [VM の注記 (VM Annotation)] フィールド VM の説明を入力します。 • カスタム属性 (Custom Attributes) [名前 (Name)]、[タイプ (Type)]、および [値 (Value)]を指定するには、[追加 (Add)] (+) をクリックします。 <p>以下は、追加できる [カスタム属性 (Custom Attributes)] の一部です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • \${VM_HOSTNAME} • \${VM_HOSTNAME_SHORT} • \${VM_HOSTNAME_DOMAIN} • \${VM_IPADDRESS} • \${VM_ID} • \${VM_NAME} • \${VM_STATE} • \${VM_STATE_DETAILS} • \${VM_PARENT} • \${VM_CLOUD} • \${VM_GROUP_NAME} • \${VM_GROUP_ID} • \${VM_VDC_NAME} • \${VM_VDC_ID} • \${VM_SR_ID} • \${VM_SCHED_TERM} • \${VM_TYPE} • \${VM_COMMENTS} • \${VM_CATALOG_ID}

名前	説明
	<ul style="list-style-type: none"> • \${ INITIATING_USER} • \${SUBMITTER_EMAIL} • \${SUBMITTER_FIRSTNAME} • \${SUBMITTER_LASTNAME} • \${SUBMITTER_GROUPNAME} • VM の作成の変数 : <ul style="list-style-type: none"> • \${SR_ID} • \${GROUP_NAME} • \${USER} • \${APPCODE} • \${COST_CENTER} • \${UNIQUE_ID} • \${LOCATION} • \${PROFILE_NAME} • \${COMMENTS} • \${CATALOG_NAME} • \${CLOUD_NAME} <p>(注) VM の注記として追加した情報は、[VM の詳細 (VM Details)] ページでその VM に対して表示されます。</p>

ステップ7 [送信 (Submit)] をクリックします。

OS ライセンス

Cisco UCS Director は、ユーザが Windows OS ライセンスを追加するためのオプションを提供しています。これらのライセンスは、カタログの作成時に Windows イメージにマッピングされます。VMware システム ポリシーで Windows イメージに対して Windows OS ライセンスを提供する、またはカタログの作成時に OS バージョン フィールドからキーを選択する、というオプションがあります。

OS ライセンスの追加

- ステップ1 メニューバーで、[ポリシー (Policies)] > [仮想/ハイパーバイザポリシー (Virtual/Hypervisor Policies)] > [サービスの提供 (Service Delivery)] を選択します。
- ステップ2 [OSライセンス (OS License)] タブを選択します。
- ステップ3 [追加 (Add)] (+) をクリックします。
- ステップ4 [ライセンスの詳細の追加 (Add License Details)] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[Windows のバージョン名 (Windows Version Name)] フィールド	Windows バージョン名。
[ライセンス (License)] フィールド	Windows 製品 ID またはライセンス キー。このフィールドは、KMS クライアントセットアップキーを受け入れます。
[ライセンスの所有者名 (License Owner Name)] フィールド	Windows ライセンスの所有者名。
[組織 (Organization)] フィールド	VM で設定する組織名。
[ライセンスモード (License Mode)] ドロップダウンリスト	シート単位またはサーバ単位が選択できます。
[ライセンス取得済みのユーザ数 (Number of Licensed Users)] フィールド	ライセンス ユーザまたは接続の数。

- ステップ5 [送信 (Submit)] をクリックします。

エンドユーザセルフサービスポリシー

エンドユーザセルフサービスポリシーは、ユーザが VDC で実行できるアクションまたはタスクを制御します。このポリシーを作成するには、まずアカウントタイプ（たとえば VMware）を指定します。アカウントタイプを指定したら、続いてポリシーを作成します。ポリシーを作成したら、同じアカウントタイプを使用して作成した vDC に、そのポリシーを割り当てる必要があります。たとえば VMware 用のエンドユーザポリシーを作成した場合は、VMware vDC を作成する場合にこのポリシーを指定できます。他のアカウントタイプ用に作成したポリシーを表示したり割り当てたりすることはできません。

Cisco UCS Director では、エンドユーザセルフサービスポリシーの作成に加えて、次のタスクを実行できます。

- [表示 (View)]: ポリシーの概要を表示します。
- [編集 (Edit)]: [エンドユーザポリシー (End User Policy)] ダイアログボックスが開き、説明またはエンドユーザセルフサービスオプションを変更できます。
- [複製 (Clone)]: [エンドユーザポリシー (End User Policy)] ダイアログボックスが開き、既存のエンドユーザセルフサービスポリシーで定義されたパラメータを使用して追加のポリシーを作成できます。
- [削除 (Delete)]: システムからポリシーを削除します。VDCが割り当てられているポリシーは削除できません。



重要

ユーザがVDCで実行できるタスクは、ユーザがマッピングされたロールと、VDCに割り当てられたエンドユーザのセルフサービスポリシーによって定義されます。最新リリースにアップグレードしている場合、VM管理タスクを実行する権限は、いずれかの既存のエンドユーザのセルフサービスポリシーに保持されます。ただし、ユーザが属するユーザロールに定義されている権限が優先されます。

エンドユーザポリシーの作成

- ステップ 1** メニューバーで、[ポリシー (Policies)] > [仮想/ハイパーバイザポリシー (Virtual/Hypervisor Policies)] > [サービスの提供 (Service Delivery)] を選択します。
- ステップ 2** [エンドユーザセルフサービスポリシー (End User Self-Service Policy)] タブを選択します。
- ステップ 3** [追加 (Add)] (+) をクリックします。
- ステップ 4** [エンドユーザポリシーの追加 (Add End User Policy)] ダイアログボックスで、ドロップダウンリストからアカウントタイプを選択します。
- ステップ 5** [送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 6** [エンドユーザポリシー (End User Policy)] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[ポリシー名 (Policy Name)] フィールド	ポリシーの名前。
[ポリシーの説明 (Policy Description)] フィールド	ポリシーの説明。

名前	説明
[エンドユーザセルフサービスオプション (End User Self-Service Options)] フィールド	このポリシーによって割り当てられている VDC でユーザが実行できるタスクの一覧です。 タスクのリストは、[アカウントタイプ (Account Type)]によって異なります。

ステップ7 [送信 (Submit)]をクリックします。

次の作業

このエンドユーザポリシーを VDC に割り当てます。詳細については、[仮想データセンターの追加](#)を参照してください。

VM 管理ポリシーの設定

このポリシーは、VDC で VM を管理する方法を定義します。

- ステップ1 メニューバーで、[ポリシー (Policies)]>[仮想/ハイパーバイザポリシー (Virtual/Hypervisor Policies)]>[サービスの提供 (Service Delivery)]を選択します。
- ステップ2 [VM管理ポリシー (VM Management Policy)]タブを選択します。
- ステップ3 [追加 (Add)] (+) をクリックします。
- ステップ4 [VM管理ポリシーの追加 (Add VM Management Policy)]ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

フィールド	説明
[ポリシー名 (Policy Name)] フィールド	ポリシーの一意の名前。
[ポリシーの説明 (Policy Description)] フィールド	ポリシーの説明。
VMリース期限の通知設定	
[VMリース通知の設定 (Configure VM Lease Notification)] チェック ボックス	リース時間が設定された VM の通知パラメータを設定するには、このチェック ボックスをオンにします。

フィールド	説明
[通知を送信する、VMリース期限の残り日数 (How many days before VM Lease expiry should notifications be sent)] フィールド	番号を入力します。 この数値は、VMのリース期限が切れる何日前に電子メール通知がVMの所有者に送信されるかを示します。
[通知の送信回数 (How many notifications should be sent)] フィールド	番号を入力します。 この数値は、VMのリースの期限をユーザに通知する電子メール通知の送信回数を示します。
[通知間隔 (Interval between notifications)] ドロップダウン リスト	ドロップダウン リストから数値を選択します。 この数値は、送信される電子メールの通知間隔を定義します。
非アクティブVM管理設定	
[非アクティブなVMを削除するまでの期間 (Delete after inactive VM days)] フィールド	番号を入力します。 この数値は、非アクティブなVMがシステムから削除されるまでの日数を示します。 (注) [vDC ポリシーに基づいた非アクティブなVMの削除 (Delete Inactive VMs Based on vDC Policy)] オプションをプロパティ ペインで選択した場合のみ非アクティブVMは削除されます。このオプションは、[管理者 (Administration)] > [システム (System)] > [高度なコントロール (Advanced Controls)] を選択した際に表示されます。

フィールド	説明
<p>[期限切れVMを削除するまでの猶予期間 (Additional grace period for deleting expired VMs)] フィールド</p>	<p>番号を入力します。</p> <p>この数値は、システムから非アクティブなVMを削除するまでシステムが待機する日数を示します。</p> <p>(注) [VMの非アクティブ日以降に削除 (Delete after inactive VM days)] と [期限切れ削除VMに猶予期間を追加 (Additional grace period for deleting expired Vms)] フィールドで指定されている時間帯を超えた場合、Cisco UCS Directorにより検出されたVMは削除され、また Cisco UCS DirectorによりプロビジョニングされたVM用サービスリクエストはロールバックされます。これらのシステム用にプロビジョニングされたVMのロールバックされたサービスリクエスト (SR) 用の新しい電子メールテンプレートが導入されました。</p>
<p>[サービスリクエスト (SR) のロールバック作業が Cisco UCS Director によってプロビジョニングされた VM に失敗したときに実行されるアクション (Action to be taken when a service request (SR) rollback task fails for VMs provisioned through Cisco UCS Director)] ドロップダウンリスト</p>	<p>サービスリクエスト (SR) のロールバック作業がプロビジョニングされたVMに失敗したときに実行されるアクションを Cisco UCS Director より選択します。次のいずれかのオプションを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 通知を送信して VM を削除する • 通知を送信して VM を削除しない <p>(注) VMの自動削除Eメールテンプレートで、[ロールバック SR ID (Rollback SR ID)] という新しいフィールドが導入されました。このフィールドは、Cisco UCS DirectorによりプロビジョニングされたVMに入力され、Cisco UCS Directorにより検出されたVMのパスワードは空白になります。</p>
<p>[VM削除通知の設定 (Configure VM Delete Notification)] チェック ボックス</p>	<p>削除されるVMに関する通知パラメータを設定するには、このチェック ボックスをオンにします。</p>
<p>[VM削除の事前通知を送信する、削除前の日数 (How many days before VM deletion should notifications be sent)] フィールド</p>	<p>番号を入力します。</p> <p>この数値は、VM削除の何日前に電子メール通知がユーザに送信されるかを示します。</p>

フィールド	説明
[通知の送信回数 (How many notifications should be sent)] フィールド	番号を入力します。 この数値は、ユーザに送信される電子メール通知の数を示します。
[通知間隔 (Interval between notifications)] ドロップダウンリスト	ドロップダウン リストから数値を選択します。 この数値は、送信される電子メールの通知間隔を定義します。

ステップ 5 [送信 (Submit)] をクリックします。

次の作業

このポリシーは仮想データセンターにマッピングできます。